

登録コード	UAA06500	開講年度	2026				
授業題目	比較言語文化論				担当教員	氏岡 真士	
					副担当	野津 寛・伊藤 加奈子・磯部 美穂・葛西 敬之・鎌田 隆行	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・5 時限		
			授業形態	講義			
信大コンピテンシー該当							
(1)授業の達成目標				授業で得られる「学位授与の方針」		【授業の達成目標】	
				2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学			
				【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。		自律的な学びにより、多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有することができる。	
(2)授業の概要				研究テーマに関する認識を深め、さらに新たな認識を得るために、受講生の専門領域と現在関心を抱いているテーマを中心に、それらが、古代から現代に至る比較論的地平において、文化的、歴史的、社会的な発展過程のなかにどのように位置付けられるかを検討し、文学、言語、思想、社会等の多角的な視点から比較論的・学際的に考察する。			
(3)授業計画				第1回：ガイダンス：この授業のねらいと概要を解説し、参考書、授業の進め方、事前事後学習の方法について説明を行う（担当：氏岡） 第2回：フランスの近現代文学の特徴（担当：鎌田） 第3回：フランスの近現代批評の特徴（担当：鎌田） 第4回：日仏比較文学の視界（担当：澁谷） 第5回：日仏比較文学の探求（担当：澁谷） 第6回：比較文学としての西洋古典学 比較文学としてのラテン文学（担当：野津） 第7回：比較文学としての西洋古典学 近代日本におけるギリシア悲劇受容（担当：野津） 第8回：中国語文法の特徴（担当：伊藤） 第9回：中国語言語表現の特徴（担当：伊藤） 第10回：歴史比較言語学のはじまり（担当：磯部） 第11回：歴史比較言語学の方法論（担当：磯部） 第12回：19世紀ドイツの文学と批評（担当：葛西） 第13回：20世紀ドイツの文学と批評（担当：葛西） 第14回：中国の古典文学（担当：氏岡） 第15回：中国の近現代文学（担当：氏岡） テストは行わず、レポートを課す（第15回授業の際に出題）。			
(4)成績評価の方法				●以下を総合して判定する。 各課題発表で行うプレゼンテーションとディスカッション（50％）と学期末のレポート（50％）で評価を出す。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀、89-80％ 優、79-70％ 良、69-60％ 可、59％以下 不可。			
(5)成績評価の基準				【卓越している】(1)問題の設定が適切であり、(2)その問題の背景を説明できており、(3)その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(4)それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(5)その上で自分の見解を提示できており、(1)～(5)に加えて、授業で学んだ中の複数の分野に関わる文献が参照されており、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】上記(1)から(5)までの5項目を満たしていて、非常に高い水準にある。 【やや上にある】上記(1)から(4)までの4項目を満たしていて、高い水準にある。 【その水準にある】上記(1)から(3)までの3項目を満たしていて、一定水準にある。			
(6)事前事後学習の内容				毎回の授業の終わりに内容を振り返って復習課題を出題し、また、次回の内容につながる予習について指示を行う。			
(7)履修上の注意				主たる担当教員は氏岡が務め、副担当教員（鎌田・澁谷・野津・伊藤・磯部・葛西）も協力して共同開講する。 教材の準備の必要から、受講生は初回開講日の前々日までに、主担当教員にメールで受講の旨を連絡すること。 第二回以降の開講日時は教員と受講生で相談の上、設定する。 オンライン・オンデマンド等の場合、URLはeALPSに掲載する。			
(8)質問、相談への対応				授業中に質問を受けつける時間を十分に設けるとともに、オフィスアワーまたはアポイントメントによる面談で受講生からの質問に対応する。			
【教科書】				プリント等を配布して進める。			
【参考書】				松澤和宏編『テキストの解釈学』、名古屋大学出版会、2012. 真野倫平編『近代科学と芸術創造—19～20世紀のヨーロッパにおける科学と文学の関係』、行路社、2015. 和田博文他『言語都市・パリ—1862-1945』、藤原書店、2002 . その他、授業の際に随時紹介する。			